

2011 環境未来国際市民大学院講座

第2回：再生可能エネルギー活用技術

主催：福岡大学 環境未来オフィス

共催：化学工学会反応工学部会活性種化学分科会

福岡大学 エクステンションセンター

後援：オーストラリア総領事館

■前半の講演は市民講座、後半は化学工学会反応工学部会活性種化学分科会講演会となります。

6月9日(木) 開場 12:30 講演 13:00~16:00

天神ビル 11階 9号会議室 福岡市中央区天神 2丁目 12番 1号

参加費無料 / 定員 60名

講座 URL <http://ews.tec.fukuoka-u.ac.jp/>

プログラム

◆ 開会 13:00 司会 中野 勝之 工学研究科長(環境未来オフィス)

◆ 招待講演 13:10~14:40 (90分) 【逐次通訳 池田愛美】

“Sustainable energy development in Australia”

「オーストラリアにおける再生可能エネルギーの開発動向」

Lianzhou Wang リャンツォウ ワン キーンズランド大学 化学工学部准教授

休憩 (10分間)

◆ 招待講演 14:50~15:50 (60分)

「環境浄化処理プロセスへの光触媒の利用とその問題点：空気浄化を中心として」

白石 文秀 九州大学大学院農学研究院 教授

※受講には事前申し込みが必要です。[裏面に FAX 申込書有]

申込方法：講座名、日付、お名前、ご所属、連絡先を明記の上、下記申し込み先までどうぞ。

申し込み先：福岡大学 環境未来オフィス 【担当：大和】

メール：osf@adm.fukuoka-u.ac.jp

お電話：093-751-9975

ファクス：093-751-9976 [裏面に FAX 申込書有]

○環境未来オフィス問い合わせ先：

■ (福岡)【担当：東】

TEL (代)092-871-6631 (内線：6447)

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

福岡大学工学部化学システム工学科内

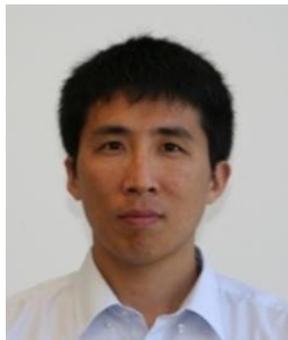
■ (北九州)【担当：大和】

TEL 093-751-9975 FAX 093-751-9976

〒808-0002 北九州市若松区向洋町 10 番地

福岡大学資源循環・環境制御システム研究所内

講師プロフィール



Lianzhou Wang リャンツォウ ワン 先生

クィーンズランド大学 化学工学部准教授

ワン准教授は、日本の国立研究所 NIMS と AIST に研究員として 5 年間在籍した後、クィーンズランド大学化学工学部で 2004 年から教鞭をとっている。

専門は高機能ナノ物質の合成とキャラクタリゼーションおよびその機能の応用に関するもので、クリーンで効率的なエネルギー変換と貯蔵システムの開発を主な目的にしている。光触媒、充電可能なリチウム電池、水処理膜などの開発が具体的な研究対象である。

最近 5 年間にオーストラリア国費プロジェクト 9 件を含む多数の公的資金を獲得し、その研究プロジェクトのチーフを務めるなど顕著な研究業績がある。

またトップランクの国際学術誌に 100 件以上の論文が掲載されており、10 件を超える特許、また 80 件を超えるプレゼンテーションがあり、引用 (ISIWeb) は 1500 件を超える。日本の STA やアレクサンダーフォン フンボルトフェローシップなど国際的な受賞歴があり、国内ではクィーンエリザベス II フェローシップ、また 2008 年にはクィーンズランド大学最優秀研究賞(UQ Research Excellence Award of 2008)を受賞した。



白石 文秀 先生

九州大学大学院農学研究院教授 (兼九州大学バイオアーキテクチャーセンター教授)

白石教授は、九州大学工学部助手 (1984-1989)、ミシガン大学医学部博士研究員 (1990)、九州工業大学情報工学部助教授 (1991-2004)、九州大学バイオアーキテクチャーセンター教授 (2004-2009) を経て、現職となる。

専門は、化学反応工学、代謝反応工学、閉鎖生態系工学、数値計算工学であり、実験と理論の両面から反応系の特性を明らかにする点に大きな特徴がある。光触媒を利用した環境浄化プロセスに関する研究では、光触媒反応速度が境界拡散抵抗により著しく低下していることを突き止め、この抵抗を除去した反応装置作りで大きな成果を挙げている。また、理論研究では、常微分方程式の数値解にほとんど誤差を含まない超高精度数値計算法 (テーラー級数法) を確立するとともに、最近、これを応用した代謝反応システムの動的感度計算ソフト SoftCADS (Software for calculation of dynamic sensitivities) を開発し、世界的に大きな評価を受けている。これまでに、化学工学会論文賞 (1990)、生態工学会論文賞 (1996)、生態工学会学術賞 (2007) を受賞。また、2003 年に Chemical Engineering Science 誌に掲載された光触媒を利用した空気浄化システムに関する論文で、Most Cited Paper 2003-2006 Award (2007) を受賞。主な著書に、「固定化酵素反応のコンピュータ解析」(コロナ社、1996)、「バイオケミカルシステム理論とその応用：システムバイオロジー解析を効率化する」(産業図書、2006) がある。

FAX : 093-751-9976

FAX 申込書

2011 環境未来国際市民大学院講座 6/9

フリガナ お名前 ※必須	
ご所属	
ご住所	
お電話番号 ※必須	
メールアドレス	